

令和4年度埼玉県オハイオ州スカラシップ

語学・大学留学コース 最終レポート

令和4年度奨学生 宮原佑季

これが最終レポートとなるのはまだ信じられないくらい一瞬で過ぎ去っていった10ヶ月でした。毎日充実しており、海外で英語を使いながら生活するという夢のような時間が終わってしまった悲しさと共に、10ヶ月乗り切ったという達成感を感じています。今回は最終月の5月についてと、留学の総括を書きたいと思います。本レポートをもって私の留学レポートは最後となります。今まで読んでくださってありがとうございました。レポートを通して本プログラムの様子が少しでも伝わっていたら幸いです。

【学期終了後】

履修している授業にもよりますが、4月下旬から5月上旬がテスト期間にあたり、テスト終了次第大学から退去する必要がありました。留学生は特別な申請をすれば、学期最終日から1週間程度滞在できるようです。日本人学生の多くは日本の大学との兼ね合いもあり、春学期最終日に日本へ帰国して行きました。その他の学生は帰国までの道中で個人的に旅行をしたり、フィンドレーの日本人の先生である川村先生の企画したプログラムに参加したりと思いに過ごしたようです。私は友人の家に泊まったり、フィンドレーを卒業する友人の卒業パーティーに参加したりして過ごしました。また、5月9日から11日の3日間コロンバスでの表敬訪問とジョブシャドウイング（お仕事見学）の機会もいただき、帰国まで有意義に過ごすことができました。

大学から退去する際に、住んでいた家から私物を全て撤去する必要があったため、荷物に収まりきらなかったものは学内の留学生をサポートするビューフォードセンターに寄付したり、古着屋さんで売ったりして（季節外れのものはいくら買っても買えず、ほとんど返却されてしまいましたが…）、なるべく捨てないように心がけました。また、ヤマト運輸などの宅配サービスを使用して私物を日本に送っている友人もいました。退去する際は部屋の家具を元の位置に戻さなければいけません。最終日を待たずしてルームメイトが帰省してしまう場合もあるので、家具の移動についてはルームメイトと事前に相談した方が良さそうです。

【コロンバス 表敬訪問・ジョブシャドウイング】

学期終了後はコロンバスでの表敬訪問と、オハイオ州政府開発局でのジョブシャドウイングを行いました。ジョブシャドウイングは昨年度の奨学生から始まった試みで、担当の職員の方が、今後も続けていきたいとおっしゃってしました。表敬訪問では、ジョブズオハイオとオハイオ州の教育局に伺いました。ジョブズオハイオは州政府開発局の機能の一部を民営化してできた企業で、オハイオ州の経済発展を推進しています。ジョブズオハイオでは

職員の方からオハイオ州の経済について色々なお話を拝聴し、オハイオ州は世界ランキングで見ても 21 位の経済規模を誇り、最近では物価や地価が上がっている西海岸やニューヨークから様々な企業を誘致しているという興味深いお話を伺うことができました。ジョブズオハイオでの表敬訪問のあとは、教育局に伺いました。教育局ではオハイオ州の教育制度について教えていただき、特に Diploma Seal 制度というものが印象的でした。条件を満たすと、12 種類のシールの中から特定のものがもらえ、それが高校卒業以降の進路で利用できるという制度です。例えば、軍隊シール、コミュニティサービスシール、言語学シールなどがあります。教育局ではまた、オハイオ州は他の州に比べて大学が密集しているということを学びました。教育が発展しているオハイオ州に留学することができ、とても恵まれていたのだと感じました。表敬訪問では留学を通して学んだことをプレゼンテーションしました。プレゼンテーションの準備は大変でしたが、本プログラムに関わっている方に感謝を伝えるとともに、留学を振り返る良い機会となりました。

ジョブシャドウイングでは、3 日間オハイオ州開発局やオハイオ州政府の仕事を見学させていただきました。開発局はオハイオ州のビジネスの支援や、マイノリティの支援、海外との関係性の構築など幅広い仕事を担っています。特に印象的だったのは、スモールビジネスに関する業務で、スモールビジネスがオハイオらしさを作り出すと担当の方がおっしゃっていたのが興味深かったです。大きな企業を誘致した方がオハイオの経済がより潤う中で、小さなビジネスを行っている人々を支援することの重要性を学ぶことができました。また、学生が政府の仕事を学ぶ機会が多い点も驚きました。開発局には高校生のインターン生がいたり、オハイオ州の大学生向けのインターンプログラムを行っていたりと、若いうちから将来の仕事について考える機会が多い点が日本との比較の中で印象的でした。ジョブシャドウイングのセッティングを担当してくださった方も、大学時代に開発局でインターンを行っていた方で、高校生の時は裁判所でもインターンを行っていたそうです。

ジョブシャドウイングでは、開発局の他にも州会議事堂を見学したり、担当してくださった方のインターン時代のつながりで、オハイオ州最高裁判所のツアーやオハイオ州立大学を訪問したりしました。議事堂を訪れた際は、ちょうど州憲法改正に係る法律の議論が行われており、プラカードを持った多くの市民が裁判所内でデモを行っていました。最近日本でもデモが多く行われていますが、一般市民が議事堂に自由に入出入りしてデモが行えるということに驚きました。また、教育予算に関する委員会も見学し、中学生が意見陳述をしているのを見て、若い世代の政治への関心の強さや、教育予算の影響を直接受ける中学生の意見を積極的に聞こうとする委員会の姿勢に感銘を受けました。

ジョブシャドウイングの最後には、元フィンドレー市長で、現開発局長のミハリク氏とお話しする機会をいただき、留学やジョブシャドウイングで学んだことについてのプレゼンテーションを行いました。留学の振り返りに関する発表で、フィンドレー大学が積極的に地域との交流の機会を設けていたことが印象的だったという話をすると、フィンドレー大学はもともと市と提携しているため、そのつながりが現在も続いているのだと教えていただ

いたことが印象的でした。面会終了後には、新しく発表されたオハイオ州のロゴが描かれたピンバッジをご自身のジャケットから外してプレゼントしていただき、とても気さくな方で楽しい時間を過ごすことができました。ミハリク氏の市民をととても大切にされている姿勢に心を打たれ、将来は人々の生活を豊かにできるような仕事に就きたいと改めて感じました。



ミハリク氏と。真ん中はオハイオ州の新しいロゴとスローガン。



議事堂で行われていたデモの様子。議事堂の至る所に市民がいた。

【留学を終えて】

今回のプログラムでは殻を破るということを目指していました。本プログラムに応募すること自体が私にとっては大きな挑戦でしたが、留学中も地域でのボランティア活動、多くのプレゼンテーションの機会、イベントの企画・運営、コロンバスでのジョブシャドウイングなどたくさんの挑戦の機会をいただきました。今までの自分だったら絶対にやらないようなことにも取り組むことができ、目標は達成できたのかなと思います。

今回の留学で学んだことはたくさんありますが、その中でも2点大きな学びがありました。1点目は誰かに頼っても良いということです。アメリカ生活では誰かに頼らないと生きていけませんでした。買い物に行くのも友人に車を出してもらわなければならない、最初は友人に何回も頼むことが非常に申し訳なく感じていました。しかし、友人に、雪の中片道40分歩いてウォルマートというスーパーマーケットに行ったという話をした際、「なんで声かけてくれなかったの?!もう友達やめよう」と冗談混じりに言われ(一緒に見ていたアメリカのコメディドラマのワンシーンにFriendship over!というセリフがあり、それを真似したものです。)、人に頼ることは悪ではないのだと感じました。このような経験が何度もあり、

自分の思いを言葉にして出すこと、自分でできないことは頼ること、そして、意外と周りも助けてくれることを学びました。

2点目が人と自分は違うということです。文字で書くと当たり前に見えますが、日々の生活の中で自分の当たり前を周りの人に押し付けていたのではないかと気づき、反省しました。日本では「察する」という文化が強いと思いますが、アメリカでは日本ほどではありません。「察してもらおう」という考え方は通じず、自分の言葉で伝えることの大切さを日々実感していました。他人と自分の違いを感じるエピソードは他にもあります。誕生日プレゼントを友人からもらった際、とても重くかさばるガラス製のタンブラーをもらいました。日本人のセンスであれば、数ヶ月後に帰国する留学生にそんな持ち帰りづらいものあげないだろ！と言いたいところですが、それも私のことを考えてプレゼントしてくれたものです。事前にどういうものが欲しいのかを細かく伝えておけばよかったなど、嬉しくも少し後悔した経験でした。アメリカでは様々な背景を持つ人と交流する機会がありましたが、それぞれの属する（属していた）コミュニティによって人との付き合い方が全然違いました。日本では考えられないくらい他人を気遣って（たまに度を越して、束縛なのでは？と感じることも…）いる方もいました。人間関係のあり方は本当に人それぞれで、日本の常識、自分の中の常識を人に押し付けるのは間違いだと学びました。そして、それぞれの個性と折り合いをつけながら良い関係を作っていくことは可能なのだと感じました。

【さいごに】

本プログラムでは、他のプログラムでは絶対にできないような様々な経験をさせていただきました。そして、たくさんの素敵な方々に囲まれ、かけがえのない思い出と学びを得ることができました。このプログラムを通してお世話になった全ての方々に心より感謝申し上げます。